

グローバルな人材育成のための多言語多文化交流実習

お茶の水女子大学大学院教授

森山 新

本プログラムは2011年8月3日から23日の21日間にわたり、協定校の韓国、淑明女子大学の協力のもと実施された。本来行われるべき日韓大学生国際交流セミナー（お茶の水女子大学グローバル教育センター、同グローバル文化学環、同徳女子大学校日本語学科主催）が東日本大震災のため中止に追い込まれ、それに代わる多文化交流プログラムとして開催するに至り、11名の本学学生が参加した。参加した学生には淑明女子大学のサマースクール SISS (Sookmyung International Summer School) での成績と最終レポートの内容を加味し、多文化交流実習Ⅰ・Ⅱ（担当：森山新）の授業の成績と単位4単位が与えられた。

プログラムは午前中は英語による国際政治経済学、国際経営学の授業に参加、午後はレベル別に韓国の言語と文化を学ぶ授業に参加した。その結果英語、韓国語のコミュニケーション能力養成と異文化理解に貢献できたと思われる。参加者は日本だけでなく、中国、台湾、ドイツ、アメリカ、カナダなど多彩で、授業でのディスカッションを通じ、単に韓国の言語と文化に対する理解だけでなく、東アジア、ひいてはグローバルな視野から物事を考え、討論する機会となり、国際理解促進に貢献できたと思われる。

週末などは自主的に他国の学生と計画を立て、38度線付近の統一展望台、独立記念館、国立中央博物館、故宮などを訪問し、韓国に対する理解を深めると同時に、世界の学生との協働により共通の課題に取り組む機会になったと考える。

参加者は今回のプログラム参加を通じ、より長期の留学に対し動機付けが与えられたようである。英語のコミュニケーション能力の重要性に気づき、英語圏の留学を考える者、韓国に関心を持ち、より長期の交換留学などを考える者などがほとんどであった。内向き志向が指摘される日本人学生だが、今回の参加者全員が、自国にこもってはいられないこと、世界に出て行くことの必要性和醍醐味を痛感したようで、その点が何よりもの収穫であった。

参加者には海外旅行者保険の加入を義務付けたほか、期間中教員1名が付き添い、さらに24時間日本語による緊急連絡体制を整えることで参加者の安全には細心の注意を払った。また緊急連絡網を作成、非常時に出身大学や父兄への連絡も迅速に行える体制を整えた。実際も全てを無事に終えることができた。また期間中、付き添い教員は他の業務がない限りグローバルラウンジに待機して、学生の相談などに対応した。

今後もこのプログラムを継続していく予定であるが、他の協定校のプログラムも見渡しつつ、同様のプログラム実施の可能性がある場合にはそれも活用しながら、学生に対し、世界に目を向ける多様な機会を提供できればと考えている。

今回は JASSO のショートビジットプログラムの支援を受ける中で実施された。海外でのプログラムは、費用の面で参加に躊躇する学生も少なくないが、今回の JASSO 支援により学生たちには海外でのプログラム参加がより容易なものとなった。心から感謝を申し上げたい。